

研究実施のお知らせ

2025 年 10 月 7 日 ver.1.0

研究課題名

胆道鏡・膵管鏡の有効性と有害事象に関する後ろ向き研究

研究の対象となる方

2012 年 4 月から 2025 年 10 月までの間に島根大学医学部附属病院で胆道鏡・膵管鏡を受けられた方

研究の目的・意義

胆道鏡（たんどうきょう）・膵管鏡（すいかんきょう）は、胆汁の通り道（胆道）や膵臓の管（膵管）を内視鏡で直接観察し、病気の診断や治療を行う方法です。以前は機器の性能に限りがありましたが、近年は高性能な機器が複数のメーカーから登場し、より多くの病気を見つけられるようになりました。さらに、これまでは手術が必要だった大きな胆管結石も、結石を砕くための特殊なエネルギー（電気水圧式衝撃波）を併用することで、内視鏡で治療できる可能性が広がっています。一方で、胆道鏡・膵管鏡は有用な検査・治療である反面、合併症（発熱、出血、胆管炎・膵炎など）が起こることがあります。これらの起こり方や重さについて、これまで十分にまとまった報告は多くありません。

そこで当院では、これまで島根大学医学部附属病院で行ってきた胆道鏡・膵管鏡の症例を診療記録（カルテ）にもとづいて振り返って調べる研究を計画しました。新たに検査をお願いするものではなく、追加の通院や採血はありません。

この研究では、

- どのくらいの精度で診断できたか、治療はどの程度うまくいったか
- 合併症の種類、重症度、経過（その後どうなったか）

を明らかにします。得られた結果は、今後の胆道鏡・膵管鏡の技術向上と安全性の改善に役立てるとともに、これから検査・治療を受けられる患者さんへのわかりやすい事前説明（インフォームド・コンセント）に反映していきます。

研究の方法

利用する診療情報の項目： 以下の項目を取得します。

- 1) 年齢、性別
- 2) 胆道・膵に関する治療歴

- 3) 胆道鏡・膵管鏡を試みた目的
- 4) 胆道鏡・膵管鏡を試みた日
- 5) 使用した胆道鏡・膵管鏡の種類
- 6) 胆道鏡・膵管鏡挿入前に追加した乳頭処置内容
- 7) 胆道鏡・膵管鏡下生検の有無（生検実施していれば部位）
- 8) 電気水圧式衝撃波の有無
- 9) 胆道鏡・膵管鏡直近の総ビリルビン値、血中 AST、ALT、ALP、AMY、Lipase、CRP
- 10) 胆道鏡・膵管鏡翌日から 4 週間後までの総ビリルビン値、血中 AST、ALT、ALP、AMY、Lipase、CRP
- 11) その他の有害事象
- 12) 胆道鏡・膵管鏡後の最終診断と転帰

研究の期間

2025 年 11 月（研究許可後）～2026 年 10 月

研究の公表

この研究から得られた結果は、医学関係の学会や医学雑誌などで公表します。その際にあなたのお名前など個人を識別できる情報を使用することはありません。

研究組織

この研究は次の機関が行います。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院消化器内科 福庭暢彦

情報の利用停止

ご自身の情報をこの研究に利用してほしくない場合には、ご本人または代理人の方からお申し出いただければ利用を停止することができます。

なお、利用停止のお申し出は、2026 年 3 月までにお願いいたします。それ以降は解析・結果の公表を行うため、情報の一部を削除することができず、ご要望に沿えないことがあります。

相談・連絡先

この研究について、詳しいことをお知りになりたい方、ご自身の情報を研究に利用してほしくない方、その他ご質問のある方は次の担当者にご連絡ください。

研究責任者：

島根大学医学部附属病院消化器内科 福庭暢彦

〒693-8501 島根県出雲市塩冶町 89-1

電話 0853-20-2190 FAX 0853-20-2189